

令和2年度らんらんプロジェクト採択一覧

受付番号	プロジェクト名称	継続 新規	採択実績	種別	目的	実施時期
1	工大カフェプロジェクト	新規	0	団体	<p>学生と地域住民が協働で学内カフェをつくる「室工大カフェプロジェクト」については、来年度オープンに向け、地域住民と学生が参加したワーキングやワークショップを定期的に開催し進められている。</p> <p>そのような中、今後は地域住民のみならず、学部や学年の垣根を超えた学生同士が様々な形で室工大カフェプロジェクトに関与することで、学生同士の交流やつながりを生むとともに、室工大カフェプロジェクトの持続性にも一躍を担うと考えられる。</p> <p>そこで、本プロジェクトに参加している学生のワーキングメンバーを中心に、工大カフェで活用を予定している外部空間（ガーデン）で使用するベンチ等の制作においては、広く学生や地域の親子などへ周知し、ワークショップ形式等のイベントで実施することで、地域と学生、地域と大学カフェなさまざまなつながりの場を作ることも試してみたい。</p> <p>なお、ベンチ等のものづくりの設計・制作をプロジェクトの目的達成の手段とする理由としては、</p> <p>① 今後工大カフェやガーデンの活用を考える際にそのようなスキルを獲得することは重要であること</p> <p>② ものづくりという点で工学系の学生が参画しやすいこと</p> <p>③ DIY等のノウハウや興味を持った地域住民との関わりのきっかけになること</p> <p>等が考えられるからである。</p> <p>最後に、申請メンバーの一部の学生はらんらんプロジェクト(H28～31)の「大地と地域を結ぶ高砂5丁目公園プレーパークプロジェクト(H28～31)」の参加メンバーであるのでイベント実施のノウハウ等は蓄積済みであるが、今年度はコロナ対応等により同プロジェクトの実施が困難と判断されたため、本企画プロジェクトを通じて、地域と学生等の交流や運営組織の継続等を行う事も目的の1つである。</p>	2020年11月～ 2021年2月
2	ウエイトやろうぜ！2020	新規	0	サークル	<p>① 男性優位だと思われて重量挙げは、ロンドン五輪で女性選手が銀メダルを獲得するなど目覚ましいものがある。その選手が取り組むトレーニングの中でもクリーンやスナッチといった“クイックリフト”は足腰の強化や瞬発力の鍛錬に有効であり、その重要性について様々なスポーツから注目されている。また、室蘭市の陸上界では、全国大会出場など高校女子の活躍が著しく優秀な競技者が数多く存在する。その一方で、正しいクイックリフトを指導できる指導者の数は不十分で、間違ったフォームを覚えている選手が目立つ。そこで、スポーツの分野・男女問わずクイックリフトの普及活動を行い、室蘭市の競技力向上に貢献することを目的とする（社会貢献）。これにより、多くの協議選手との交流を通じて相互理解が深まると期待される。</p> <p>② 安全にトレーニングを実施するためには、正しいフォームだけでなくウエイトが身体に与える負荷に対して抵抗加納な体づくりをすることも重要である。したがって、補強トレーニング及びクイックリフトを一式で指導することを目的とする。これにより、本プロジェクトで購入した器具は、終了後も持続的に利用されることが期待される。</p> <p>③ トレーニング業界では、健康や美容といった思考を持つ女子愛好家が増加している。そこで体を引き締めるために、女性や初心者を含め地域の人々（高校生から大人まで）と本プロジェクトを通じて達成感や爽快感を共有して楽しむことを目的とする（地域貢献）。これにより、学生同士や住民間の交流を図るとともに、大学と地域住民の交流の促進による新たなコミュニティの形成を目指す。</p>	2020年11月～ 2021年2月
3	SARD 宇宙探査開発プロジェクト	継続	4	サークル	<p>CanSatと呼ばれる小型模擬人工衛星の製作を通して宇宙開発の仕組み、ものづくりのプロセスを理解する。また、その過程で様々な知識やプロジェクトマネジメント力の獲得を目指し、大学卒業後の活動等にも活かせるようにする。</p> <p>能代宇宙イベント、種子島ロケットコンテスト、ARLISSなどの各種大会に積極的に参加することで一技術者として他大学や外部の人間との交流を通して技術者倫理や安全意識、自主性、コミュニケーション能力等を養う。上記大会での一般公開や工大祭等で自分たちの活動を地域の方々に発信する機会を通して宇宙開発やものづくりの楽しさ、奥深さを知ってもらう。</p>	2020年10月～ 2021年3月
4	クリスマスの灯りプロジェクト	継続	1	サークル	<p>大学構内にイルミネーションをすることで、冬期の大学構内の雰囲気明るくする。また、近隣住民の方々にも気軽に訪れていただけるような環境を作ることによって、より身近に大学を感じていただき、地域との結びつきを強くすることが目的である。</p>	2020年12月～ (2週間程度)